

福 祉

56期生

I テーマ設定の理由

中学校に入学して、ボランティア部で活動するようになってから私は自分の知らない様々な世界を見る事が出来た。そして、視点が変わった。

—町にはまだまだ障害（バリア）が溢れている。—

何かをしたいと思った。何をすれば良いのか。何が出来るのか。

はっきりと分からない「何か」を見つける為に私は研究を始めた。

II 研究方法

1. 事前調査

- 文献調査、インターネットを使用した調査

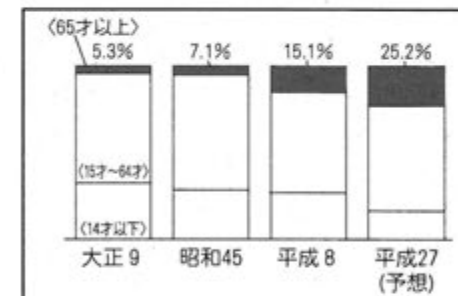
2. 実地調査

- A T Cエイジレスセンターの見学
- 自宅のバリアフリー調査

3. まとめ

III 研究内容

1. 高齢者の目線で考える



↑総人口に占める高齢者の割合

- 高齢化…総人口に占める高齢者の割合が大きくなってゆくこと

- 高齢化社会…65才以上の高齢者が7%を越えた社会

- 高齢社会…高齢者が14%を越えた社会
(国際連合より)

日本は昭和45年に「高齢化社会」となり、平成6年には「高齢社会」となった。

又、平成8年頃には高齢者(65才以上)の割合が15%を越え、世界一の長寿国となっている。

—高齢になっていくと共に体に起こる変化—

- 目が不自由になる (色の識別が困難になる、など)
- 耳が不自由になる ◦ 足・腰が弱くなり動きが鈍くなる
- 痴呆症など記憶が曖昧になる …など

福 祉

56期生

I テーマ設定の理由

中学校に入学して、ボランティア部で活動するようになってから私は自分の知らない様々な世界を見る事が出来た。そして、視点が変わった。

—町にはまだまだ障害（バリア）が溢れている。—

何かをしたいと思った。何をすれば良いのか。何が出来るのか。

はっきりと分からない「何か」を見つける為に私は研究を始めた。

II 研究方法

1. 事前調査

- 文献調査、インターネットを使用した調査

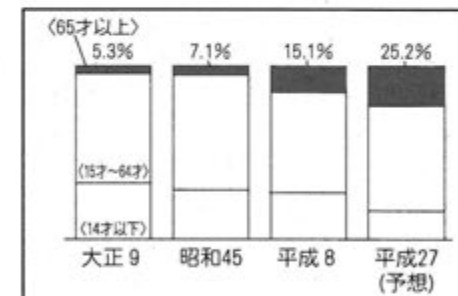
2. 実地調査

- ATCエイジレスセンターの見学
- 自宅のバリアフリー調査

3. まとめ

III 研究内容

1. 高齢者の目線で考える



↑総人口に占める高齢者の割合

- 高齢化…総人口に占める高齢者の割合が大きくなってゆくこと

- 高齢化社会…65才以上の高齢者が7%を越えた社会

- 高齢社会…高齢者が14%を越えた社会
(国際連合より)

日本は昭和45年に「高齢化社会」となり、平成6年には「高齢社会」となった。

又、平成8年頃には高齢者(65才以上)の割合が15%を越え、世界一の長寿国となっている。

—高齢になっていくと共に体に起こる変化—

- 目が不自由になる (色の識別が困難になる、など)
- 耳が不自由になる ◦足・腰が弱くなり動きが鈍くなる
- 痴呆症など記憶が曖昧になる …など

○介護保険制度について

高齢化が進んだことにより寝たきりや痴呆症の高齢者が増え、又、介護を受ける期間も長くなっている。

一方で、介護する側の高齢化も進み家族だけで介護する事が難しくなっている。その為介護を社会全体で支える「介護保険制度」が平成12年4月から導入された。これは40才以上の人が保険料を出し合い、65才以上の高齢者（一部40才以上の人）の介護が必要となった時に誰でも介護サービスを受ける事が出来るようにした制度である。

ー介護保険制度の決まりー

- ・介護サービスを受けるには「要介護認定」が必要である。
- ・介護保険の運営は市町村などが行う。
- ・介護保険の利益は保険料と税金が半分ずつ使われる。
- ・65才以上の人の払う介護保険料は住んでいる市町村によって異なる。
- ・40才から64才の人の保険料は入っている医療保険によって異なる。
- ・サービスを利用した場合は原則として1割の利用料が必要である。

○要介護認定とは

介護サービスを希望する人がどのくらいの介護サービスを必要としているのかを判定する事。市町村の職員などの調査員が直接高齢者に会って、体の具合やどんな手助けが必要かを調べ医師などの専門家を交えた審査会で相談して決める。

ー介護保険制度サービスの内容ー

- ・日帰り介護（デイサービス）
入浴、食事、運動などが出来るデイサービスセンターや老人ホームへの送り迎え。専用バス等を利用して病気がちな高齢者でも通う事ができる。
- ・訪問介護（ホームヘルプサービス）
ホームヘルパーが高齢者の家庭を訪問して介護をする。
- ・訪問入浴サービス
寝たきりになっていたり体の不自由な高齢者は入浴が困難になる為、そんな家庭をまわって入浴介助をする。
- ・グループホーム
軽い痴呆症の高齢者が介護を受けながら少人数で共同生活を送る。
- ・特別養護老人ホーム
寝たきりや痴呆症の高齢者で常に介護を必要とし、家庭で生活を続ける事が困難とされる人を介護する施設。

2. 視覚障害者の目線で考える

○どのような点で支障がでるか

- ・本など文字を読めない
- ・時計を読めない
- ・歩行が困難
- ・タッチパネル式の電子機器（電子レンジなど）が扱いにくい
- ・缶ジュースなど商品の見分けがつかない（味の種類など）
- ・食事がしにくい
- ・信号の色が分からない …など

○白杖を使って歩く

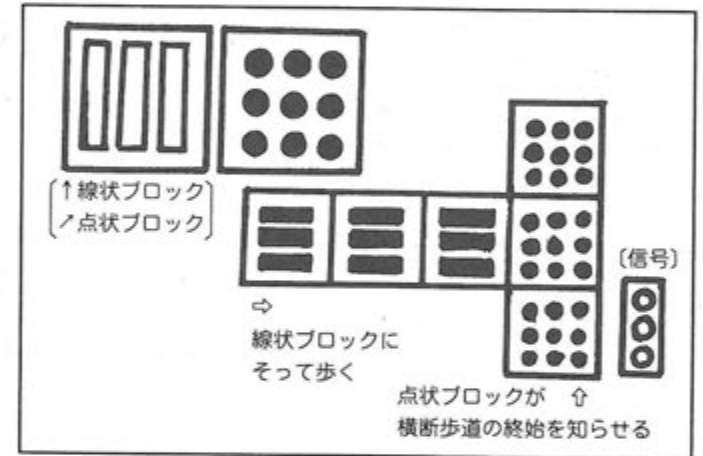
- ・白杖は外出でかかす事が出来ない。直杖（折りたたむ事が出来ない白杖）と折りたたみ杖の2つがある。これらは色々な場合にに応じて使い分けられる。

・歩道と車道



↑歩道と車道は段差によって境界線を見分ける

・視覚障害者誘導ブロック（点字ブロック）



- ・視覚障害者誘導ブロック（点字ブロック）には2種類のものがある。
線状ブロックは誘導ブロックともいい、進行方向を表す。
又、点状ブロックは警告ブロックともいい、注意をうながす。

○盲導犬と歩く

現在、全国には900頭の盲導犬がいる。盲導犬は特別に訓練された犬で、その多くがおとなしく賢いラブラドル・レトリバー。

しかし、1頭を訓練する為に必要な費用は300万円という上、10頭育てても実際に盲導犬となれるのは3~4頭の為全然数が足りないのが現状。

たくさんの方が盲導犬を待っている。

○指先で点字を読む

点字は西暦1825年にフランス人のルイ・ブライユによって作られ、その後世界中で幅広く使われている。日本の点字は1890年に石川倉次に作られた。

現在では「点字図書」などのボランティアが広まり、「点字図書館」なども少しずつ増えてきている。

3. 聴覚障害者の視点で考える

- どのような点で支障がでるか
 - ・ 言葉を覚える事が難しい
 - ・ 話し声が聞こえない (会話が難しい)
 - ・ 電話が使えない
 - ・ 音楽が聞けない
 - ・ 車のクラクションや自転車のベルに気付く事が出来ない …など
- 補聴器を使って聞く

音を大きくし、人との会話なども可能になる。しかしその反面で周囲の雑音も全て入ってくる為聞き分けには慣れや練習が必要になる。

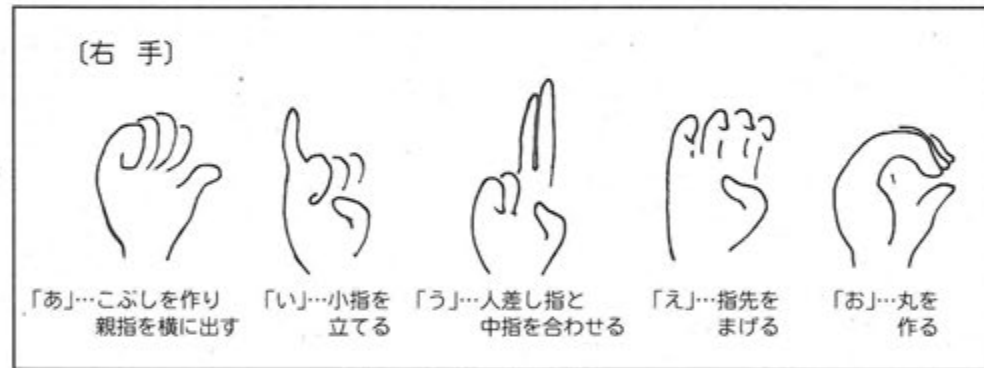
種類は多様で大きく以下のようなものがあげられる。

 - ・ 耳掛け型補聴器
 - ・ 耳穴型補聴器
 - ・ ポケット型補聴器
 - ・ FM補聴器
 - …など

○ 手話で会話する

手の形や動きによって言葉の意味を表す。又、手の位置や表情、動作なども大きな要素となる。一般には口語 (口の開き方や動きを読みとる) や筆談などと組み合わせ、意思の疎通を図る。

- ・ 手話で「あ・い・う・え・お」↓



4. ATCエイジレスセンター見学

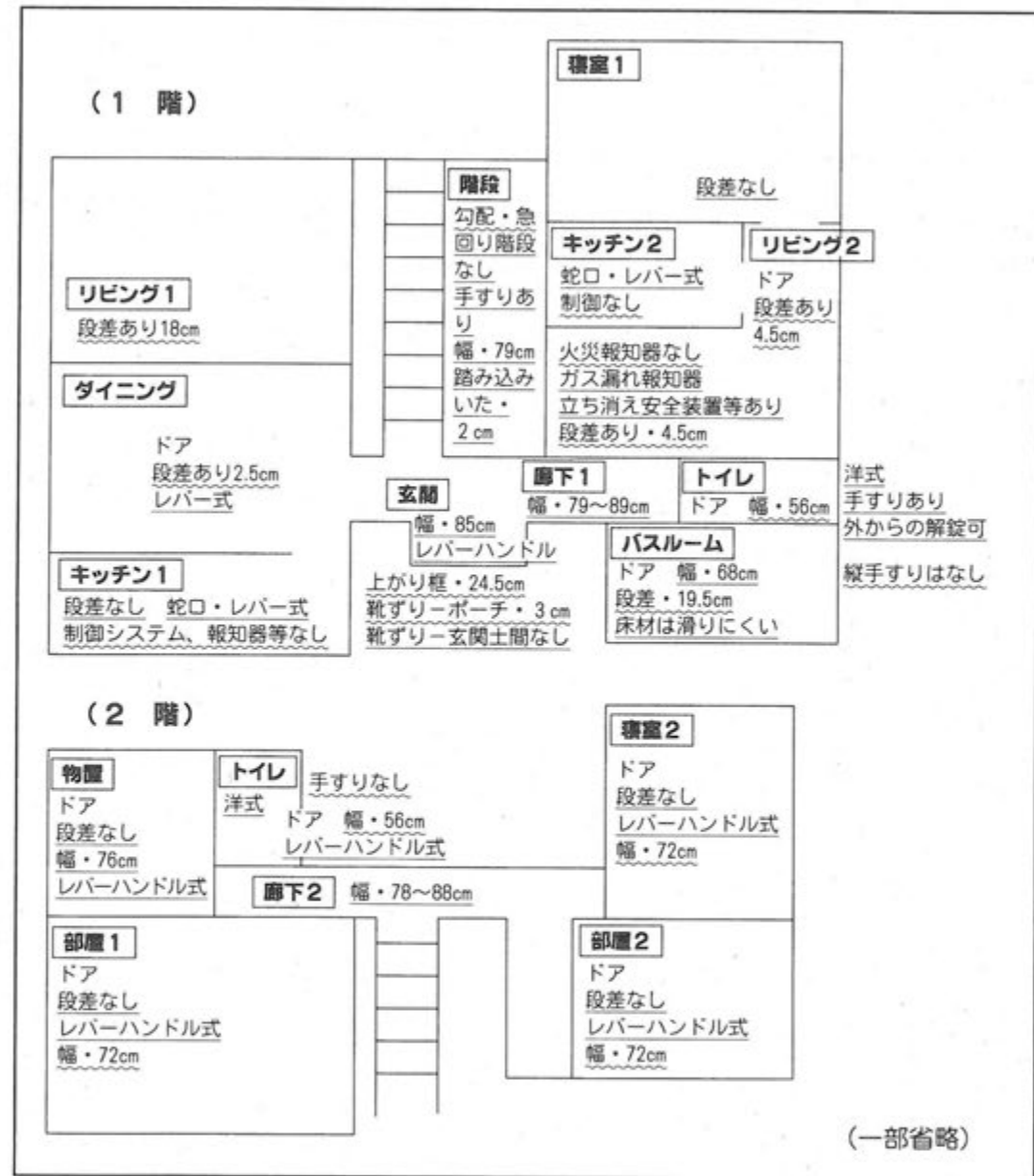
暮らしや健康・福祉などに関する情報を提供するユニバーサル社会への提案館として平成8年4月より開設。年齢やハンディに関係なく誰もが豊かな生活を送る為に開発された各種の製品やサービスを展示する国内最大級の常設展示場。

- ・ エイジレス…「老いない」「年をとらない」という意味。

年齢による格差などのない快適な社会をめざそうという願いが込められている。
- ・ ユニバーサルデザイン…特別な改造や設計をしないで、全ての人が可能な限り最大限利用できる様に配慮された製品や環境のデザインの事。

5. 自宅のバリアフリー調査

- ・ 今回は約30の項目に従って調査を実施した。結果は以下の通り。



- ・ 直線はバリア無し、波線はバリア有りを表している。
- ・ 最終的にどれだけバリアフリー化されているか比率を出した。
 - ①居間・食堂・台所→34%
 - ②居間4・台所2・寝室1→54%
 - ③廊下1・2→66%
 - ④階段1・2→73%
 - ⑤玄関→43%
 - ⑥風呂→33%
 - ⑦トイレ1・2→61%
 - ⑧部屋1・2・寝室2・物置→77%

IV 結 論

自宅のバリアフリー調査においては、日本住宅で車椅子を利用したりする事の難しさが分かる。高い段差のある玄関、風呂。また狭い台所などもその原因のひとつである。バリアフリー化された住宅は日本の住宅の約3%程とも言われている。

しかしエイジレスセンター見学などから、そういったバリアは少しの工夫で改善できるものがほとんどであると分かった。

同様に、高齢であるという事や、目・耳などが不自由であるという事も、町にはたくさんの方のバリアが溢れていてそれだけの不便はあるが、私達それぞれが少し意識を持つ事で改善してゆけるという事も分かった。

「介護保険制度」など日本にはたくさんの方の援助がある。しかしその一方で、深刻な高齢化などに対する今後の対策等が万全であるとも言いきれない事も否めない。

V 総 括

今回の研究では「バリアフリー」や「車椅子」など細かく区切った題材ではなく「日本の福祉」と大きく出はみたものの、あまりにも漠然としていてどこから手をつければよいのかさえ分からなかった。

しかし、だからこそ様々な分野に首をつっこむ事が出来たのだとも思う。

高齢であったり、目や耳が不自由であったり。それってどういう事なのか？

それぞれの一番根本的な所を見直した事で何が求められているのか、何が大切なのが分かったような気がする。色々な福祉の仕事にも調べてゆく上で興味を持てた。

家も、町も、物も人も。全てが全てに対して優しく便利であれば、きっともっと楽しく快適になると思う。

福祉というものの発展を願い、私の研究としたい。

VI 参考文献・インターネット

- ・視覚障害者のための情報機器&サービス 市橋 正光著
- ・障害者のための福祉 荘村 多加志著
- ・すぐ使える手話 谷 千春著

・<http://www.pref.gifu.jp/>

・<http://www.city.nagoya.jp/>